



[2015年 春号 Vol.40]

湊若越

みなとじゃくえつ

「港の元気は福井の元気」「地元の貨物は地元の港から」

2015年 春号

目次

- | | |
|---------------------------------|----|
| 敦賀港の防波堤整備 | P1 |
| 福井港海岸の整備 | P2 |
| 近海郵船の新造船が北海道航路に就航 | |
| 坂井農業高校生が福井港海岸工事を見学 | P3 |
| 福井高専生が福井港海岸工事を見学 | |
| 優良委託業務の事務所長表彰を挙げる | |
| まつかぜの港内体験航海を実施 | |
| みなとふれあい教室を開催 | |
| 松原小学校の校外学習で出前講座を実施 | |
| 「日本海にぎわい 交流海道ネットワーク総会」が今年敦賀市で開催 | P4 |
| 赤崎波高計の撤去 | |
| ～敦賀港を観測し続け32年～ | |
| 国際物流を支える保安対策 | |
| テロ対策合同訓練 | |
| 所長ごあいさつ | |

敦賀港の防波堤整備

日本海沿岸の中央部に位置する敦賀港は、敦賀湾の最奥に位置し、古くから天然の良港として栄えてきました。その後昭和26年に重要港湾の指定を受けた後、物流機能強化・拡充のため鞠山北・南地区が整備され、南地区では水深14mの国際物流コンテナターミナルが稼働しています。

鞠山防波堤は、これら敦賀港の物流施設や荷役利用する各種船舶を波浪から守るため、第一線防波堤として昭和56年から整備が開始されました。田結崎を起点に敦賀湾を西方に1,760m(うち護岸部が430m、防波堤部が1,330m)の延長となっており、その大部分が鉄筋コンクリート製のスリットケーソン(沖側部分にスリットが入っており、ぶつかった波の反射を押さえる)を並べる構造になっ

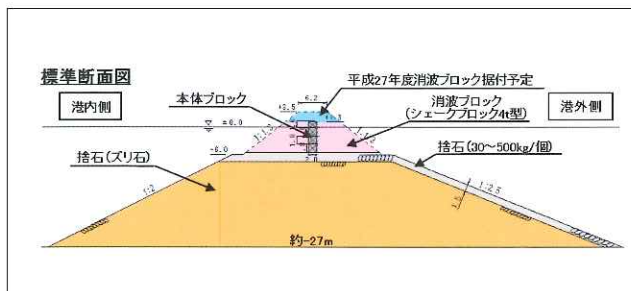
ており、全部でちょうど100個あります。また、先端部の約200m区間は消波ブロックを積み上げる構造とし、防波堤の沿い波や港内から反射してくる波を低減させる構造としています。

平成26年5月には、防波堤終端の灯台設置部分となるケーソン1個を据え付け、1,330m全延長が見えてきました。このあと平成27年度の工事で消波ブロックを水面上まで据付けて鞠山防波堤全延長が完成します。

鞠山防波堤が完成することによって、鞠山北・南地区水域の静穏度が向上し船舶の安全な航行が可能となり、各岸壁施設でのより安全な接岸・荷役ができるようになります。



先端のケーソンと消波ブロックが据わって、全体像が見えてきた敦賀港鞠山防波堤



福井港海岸の整備

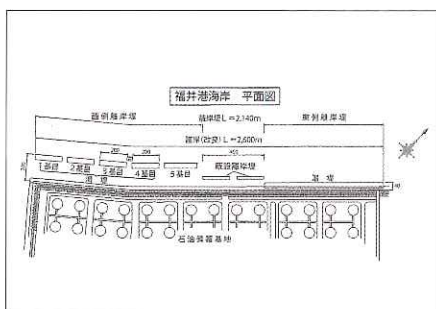
福井港海岸は、沿岸漂砂に起因する侵食が進行していると同時に、日本海特有の冬季波浪により、護岸前面消波ブロックの飛散と越波や吸い出しによる護岸背後の陥没被害が続いています。また、護岸背後の地盤は、地震時に液状化が発生することが想定され、護岸が倒壊した場合は、広範囲に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。このため、国民の生命・財産を守り国土保全を図ることを目的に、福井港海岸の整備事業では離岸堤築造工事と護岸の地盤改良工事を行っています。

平成26年度も順調に整備が進み、離岸堤及び潜堤は延長2,140mの内、東側590mを残し約1,550mが完成、護岸の地盤改良は延長2,600mの内、約1,450mが完成し、平成29年度にすべて完了する予定です。

工事が完了することで、冬季波浪や地震による護岸の倒壊を防ぎ、国土の保全が図られることが期待されます。



波が潜堤で砕け、護岸に到達する波が抑制されている様子



近海郵船の新造船(ひだか)が 北海道航路に就航

平成27年1月30日(金)、敦賀港と苫小牧港を結ぶRORO船国内航路に近海郵船(株)の新造船「ひだか」が就航し、敦賀港に初入港しました。

結ぶ国内物流の拠点となっており、3船体制で週6便運航しています。今回は3船のうちの第1船目であり、第2船は本年5月下旬、第3船は8月下旬に順次就航する予定です。

(お知らせ)

「ひだか」の初入港を歓迎し、船内で歓迎セレモニーが開催され、敦賀市の塚本副市長から石川船長へ敦賀港初入港記念盾が贈呈されました。

RORO船国内航路は、同じく敦賀港と苫小牧港間に就航しているフェリー航路とともに、関西・中京圏等と北海道を

新造船「ひだか」は、全長約18.0m、幅27m、満載喫水6.8m、総トン数11,500GT。車両積載能力はシャーシ160台、乗用車50台で、現在就航している2船(ほくと・つるが)と比べてシャーシ積載能力が約3割増となり、輸送能力の向上によりさらなる物流の活性化が期待されます。



新造船「ひだか」

※RORO船とは：Roll On Roll Off Ship(ロールオン・ロールオフ船)の略で、「乗り込んで、降りる」という意味を持っています。船尾や船側に船体と岸壁を結ぶ「ランブウェイ」を備え、トレーラーなどの車両を収納する車両甲板を持っていることで、クレーンを使わずに船の中にトレーラーやフォークリフトが自走して乗り込み、直接貨物の積み降ろしが出来る船のことです。フェリーは旅客と貨物を輸送するのに対して、RORO船は貨物のみを輸送するという違いがあります。



敦賀港験潮所は、平成26年1月に施設の老朽化及び港湾工事の支障となるため、一時的に施設を撤去し、潮位観測を休止しております。

潮位観測は、平成27年度中に再開する予定です。

坂井農業高校生が 福井港海岸工事を見学

平成26年7月4日(金)に、(二社)坂井郡建設業協会、福井港海岸の工事受注者及び当事務所の共催で、福井県立坂井農業高等学校の環境システム科2年生(28名、引率者2名)を招き、海岸事業の重要性や建設業の魅力を理解してもらうため、福井港見学会を開催しました。

最初に見学会の概要と工事内容について説明を受け、チャーターした船で海上より福井港内及び離岸堤工事では、アスファルトマットの据付作業を見学し、その後、護岸地盤改良工事では、薬液注入の実演などを見学しました。

なお、生徒達は、止水工で使用する薬材が瞬く間に固化する様子に興味を持ったようでした。

この見学により建設界(官民)に関心を持ってもらい、将来の担い手となることを期待しています。



薬液注入工法の模型による実演

福井高専生が 福井港海岸工事を見学

平成26年9月19日(金)に、福井港工事安全対策協議会、(二社)日本埋立浚渫協会北陸支部及び当事務所の共催で、福井工業高等学校の環境都市工学科四年生(33名、引率先生1名)を招き、港湾・海岸事業の重要性や建設業の魅力を理解してもらうと現場見学会を開催しました。

現場見学に先立ち、福井国家石油備蓄基地とそのPR館を見学、昼食を挟んだ後、福井港内、福井港海岸の地盤改良工事やステージから離岸堤を見学をしました。

地盤改良現場では、薬液注入を模型を通して見た後、止水で使用する薬液が瞬時に固まる実演にも参加し、その威力に興味を持ってもらいました。

現場見学が終わった後は、「公務員志望」「建設会社志望」「女性技術者(どぼじょ)」に別れ、意見交換を行いました。質疑応答では、進路に直結した質問が多く出されました。

これら見学や意見交換などにより、建設界(官民)の魅力や技術者の仕事に理解を深め、将来の担い手となってもらえることを期待しています。



学生による2種類の薬剤を固化させる実演



意見交換会の様子

優良委託業務の 事務所長表彰を挙行

平成26年7月18日、平成25年度に完成した業務のうち、優良委託業務として、「敦賀港防波堤性能検証調査」を選定し、受注者の「株式会社エコー北陸事務所」を表彰しました。

当該業務は、平成24年4月の災害を受け、鞍山北防波堤の安定性照査を行い、その結果をもとに改良構造の抽出を行うとともに、防波堤改良による効果の便益を計測したものです。

鞍山北防波堤は、内部が空洞の特殊な消波型防波堤であるため、その設計条件や構造等を考慮した工法の抽出や安定性だけではなく低反射機能も追加したケースの検討も行いました。さらに、マニュアル等で基準化されていない防波堤改良事業の費用対効果算出に当たっては、「船社・港運業者等のヒアリング」等を踏まえた便益計測を提案しました。

以上により、経済性と安定性のバランスがとれた改良断面を選定したことを評価したものです。



受賞者を囲んでの記念撮影

まつかぜの港内体験航海を実施

平成26年5月11日(日)、敦賀市内のきらめきみなと館と金ヶ崎緑地周辺において、親子・仲間・地域・自然とのふれあい等を通じて青少年の健全育成を図ることを目的に、青少年健全育成敦賀市民会議の主催で第32回「親子のフェスティバル」が開催されました。

当日は、天気にも恵まれ、多くの家族連れが会場を訪れる中、当事務所では港湾業務艇「まつかぜ」による「敦賀港内一周体験航海」を午前10時から午後3時までの計5回(約30分/回)運航し、合計90人もの親子が乗船されました。

船内では、港湾施設の役割や重要性の説明を行い、参加された親子は関心を持って説明

みなとふれあい教室を開催

敦賀港のフェリーターミナルで平成26年7月14日に、敦賀港湾事務所と防波堤工事受注者が「みなとふれあい教室」を開催し、敦賀港に近い敦賀西小学校5年生41名に、フェリーの船内見学、港の学習及び稚魚放流の体験を通じて、港の役割や「海・港」への親しみ、関心を高めてもらいました。

児童は、フェリー「すずらん」に乗船し、客室や普段は入れない操舵室等を見学し、その豪華さや大きさに感動した様子でした。

また、フェリーターミナルで、敦賀市漁協の刀根参事、そして当事務所の西田課長が講話を行いました。西田課長からは「港が生活にとって重要な役割を果たしている」ことなどの説明を行い、港の大切さを認識してもらいました。

を聞いている様子で、普段見ることでできない海からの眺めに大変興味を示されていました。

また、フェスティ

バルでは海上自衛隊掃海艇や海上保安部巡視艇の一般公開が行われたほか、きらめきみなと館や金ヶ崎緑地にて様々なイベントが実施され、多くの親子で賑わっていました。



体験航海を心待ちに乗船する人々

その後、親水性護岸フェリオスにおいて、鯛の稚魚1400匹を児童が網とバケツを使用し、海へ放流しました。



稚魚を苦戦して捕まえている様子

松原小学校の 校外学習で 出前講座を実施

平成26年10月10日(金)に、「郷土を開く古くから栄えた港」として、敦賀市立松原小学校の四年生が敦賀港を題材に校外学習を行い、ガイドつるが観光ボランティアの方と共に、昔の敦賀港を偲ばせる赤れんが倉庫やランプ小屋、資料館として復元された大和田家別荘(ムゼウム)や旧敦賀港駅舎、現フェリーターミナル等を見学しました。

この中で、当事務所は旧敦賀港駅舎において、昔の写真を使いながら、明治から現在までの敦賀港の移り変わりや現在取り扱っている貨物の種類・出入り先についての出前講座を行いました。



パネルによる説明を聞いている様子

「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 総会」が今年敦賀市で開催されます。

「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」とは、日本海沿岸地域が連携し総合的なネットワークを形成することで、地域の国際化、国土の均衡ある発展及び災害に強い社会経済の構築を目的とし平成7年に設立されたものです。会員数は現在48で、北は北海道から南は九州までの日本海を取り巻く各自治体等が参加しています。毎年、各地で総会、幹事会、講演会が開催されており、平成27年は秋頃に敦賀市で開催する予定です。

赤崎波高計の撤去 敦賀港を観測し続け39年間

敦賀港の新港築造計画に伴い昭和51(1976)年に設置され、以後39年間の長きにわたり敦賀港の港湾施設設計及び施工管理に必要な波高データを日夜観測し続けた赤崎波高計を、平成26年11月27日、水深約20mの海底から引き上げ、その役目を終えました。

現在は、観測精度の向上を目的に最新型の高象計を用いて、大水深である敦賀湾口部の立石崎沖(水深50m)に観測地点を変え、敦賀港に進入する波浪を24時間連続して観測しています。

立石観測地点の波浪データはインターネットでも見ることが出来ます。詳しくは、全国港湾波浪海洋情報網(ナウファス)をご覧ください。

パソコン <http://nowphas.mlit.go.jp/index.html>
携帯・スマホ <http://nowphas.mlit.go.jp/mb/>



敦賀港の高象計の位置図

国際物流を支える 保安対策

テロ対策合同訓練

国境を海に囲まれた我が国にとって、テロ等の国際組織犯罪に対処するためには、水際における危機管理体制の強化が重要です。

そのような中、水際におけるテロ等への対処能力並びに港湾危機管理体制の更なる強化・連携を図るため、当事務所管内の国際港湾である敦賀港・福井港・内浦港の各港では港湾危機管理コアメンバーである海上保安部・警察・消防・税関・入国管理局・整備局・運輸局・県など関係機関の連携による実働合同訓練を毎年実施しています。

平成26年度の訓練では、合同立入検査・不審者制圧・有害化学物質の処理訓練などを通じ、水際でテロを防ぐための関係機関の連携を強化しました。



テロ対策合同訓練の様子

所長ごあいさつ



北陸地方整備局
敦賀港湾事務所 所長
の吉田忠です。

昨年(2014)の4月に着任して以来、早いもので11ヶ月が過ぎ、敦賀市の生活にも慣れてきたところです。また、この間において、多くの港湾関係者等の皆様からご指導、ご協力を頂き、敦賀港の港湾施設並びに福井港の海岸保全施設の整備を円滑に進めることができました。紙面をお借り致しまして御礼を申し上げます。

さて、当事務所のメイン事業である敦賀港・福井港・内浦港の防波堤200m延伸事業は、港内静穏度の向上と航行船舶の安全かつ円滑な運航に向けて整備して参りましたが、いよいよ来年度に完成を迎えます。これにより敦賀港が益々利用しやすい港となり、地域の発展に寄与できるものと期待しているところです。

引き続き、当事務所職員一丸となり、福井県の発展と敦賀港及び福井港等港湾の発展のために微力ではございますが、尽力して参りたいと思っておりますので、今後とも、国土交通行政にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、今後の事業状況や港での出来事等については、本誌「湊若越」を通じて皆様定期的に情報発信して参りたいと考えておりますので、本誌のご愛読をよろしくお願い致します。

From
Editors

●発行

国土交通省 北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

所長・副所長(事務)・総務課・品質管理課

工務課・企画調整課・保全課・沿岸防災対策室

〒914-0065 福井県敦賀市松栄町2番43

TEL:0770-22-2590 FAX:0770-21-8101

福井分室 副所長(技術)・総務課・工務課・海岸課

〒913-0037 福井県坂井市三国町黒目24字32

TEL:0776-82-1125 FAX:0776-81-7003

敦賀港湾事務所ホームページ

<http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp/>

北陸地方整備局 港湾空港部ホームページ

<http://www.pa.hrr.mlit.go.jp>

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

大いに 良くなら みなと
0120-497-370

※海やみなとに関するご意見、ご感想をお寄せください。